

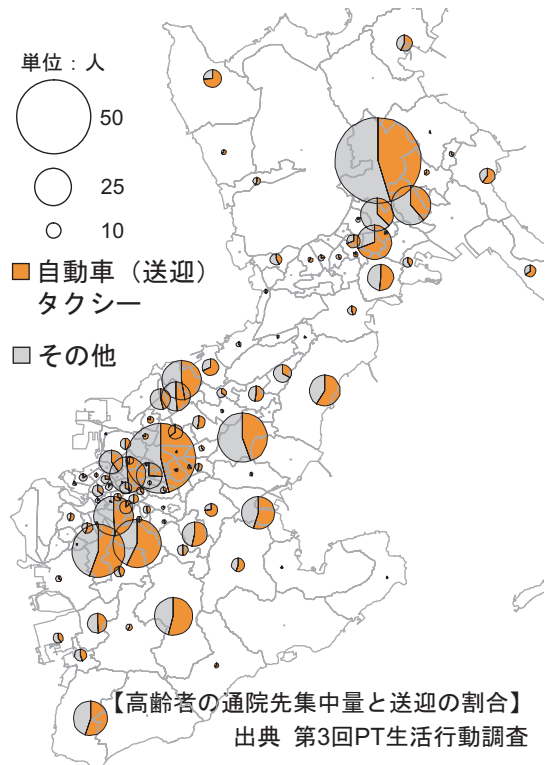
### 5-1-5 生活交通の支援に関する施策

生活交通を支援するためには、高齢者の通院や日常買い物行動、学生・生徒の通学交通、地方部における生活行動に対するニーズを的確に把握し、行政、地域、住民、事業者皆で持続可能な施策を展開する必要がある。

#### ◆高齢者の通院を支援する民間施設等と連携した交通システムの展開

##### ●病院へ的高齢者通院を支援する交通システムの展開

那覇市や沖縄市など都市部の病院へ高齢者が家族による送迎やタクシーで通院する利用者が多いことから、気兼ねなく通院できる交通システム（病院等との協力体制による送迎バス等）について、利用者ニーズも踏まえながら行政と事業者が連携して取組みを展開

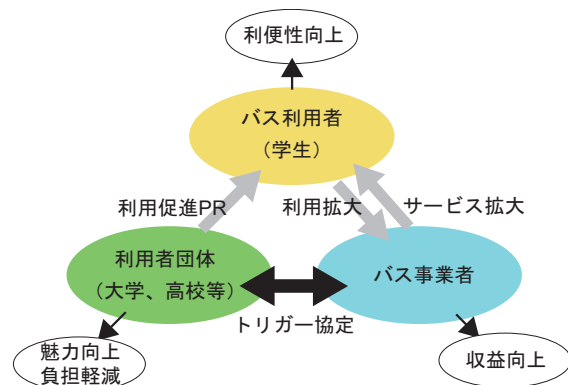


#### ◆既存ストックや動機付けを活用し、学生・生徒等の通学を支援する交通システムの展開

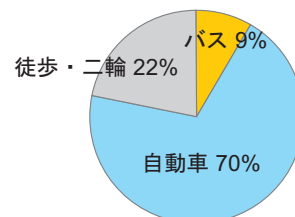
##### ●大学等と連携した交通システムの展開

現状では多くが自動車利用に特化している大学への通勤、通学者へ、積極的な利用促進を図る施策として、一定の採算ラインを下回った場合には運行を取りやめるなど、利用者、大学等に一定の動機付けを付与する合意（トリガー協定）を図る取組みを検討

●学生が公共交通を自然と利用する仕組み  
学校が公共交通に便利なアパートを学生に紹介、或いは学生専用の低額会員パス、学生証等で利用できる公共交通の仕組み（通学定期代を含めた学費等）など新たな仕組みを検討



【新たな動機付け方策による生活交通支援イメージ】



【モノレール沿線居住者の琉球大学までの通勤通学手段構成】

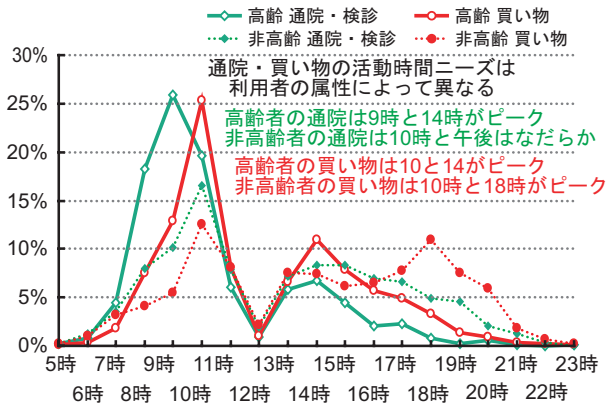
## ◆日常生活行動におけるシビルミニマムを確保するための地域交通システムの展開

### ●地域住民の生活行動ニーズに併せた交通システムの展開

高齢者・非高齢者の活動時間帯や需要規模に合わせたダイヤモンドシステムなど、地域で持続可能な交通システムを検討・展開

### ●高齢者の費用負担に配慮した交通システムの展開

高齢者の公共交通費用（住民平均の約半分（約3千円／月）程度）に見合った運行コスト抑制や負担の低減等の工夫を検討



安曇野市での住民の移動ニーズに併せた  
ダイヤモンドタクシー



## ◆地域自らが、自らの地域の足を考え、創出する仕組みの活用

地域の生活交通を支援するためには、地域自らが多様な支援策等を活用しながら、持続可能な方策を検討しマネジメントしていくことが重要であり、それぞれの実情に応じて、また取り組み意欲によって、よりよい地域公共交通を創出するための仕組み、場を設定する必要がある。

### ●市町村の役割

- 住民ニーズにあった地域全体の公共交通ネットワーク計画の策定と事業者や住民との調整
- 必要な協議の場の運営と参加者間の連絡や意見の調整、広報周知やMMの取組みの実施
- 必要な環境整備や経費負担の調整
- 地域を良くしたい強い志と行動力、地道な調整力が必要

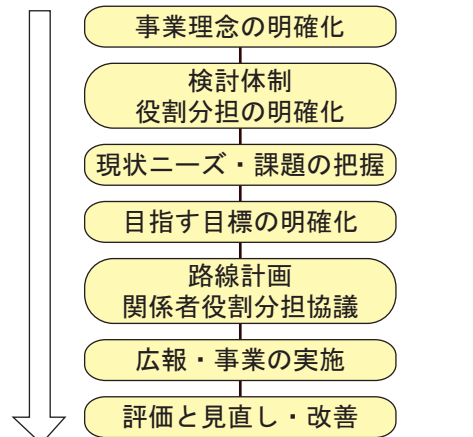
### ●事業者の役割

- 計画方針・戦略に対する積極的な提案と助言
- 協議を経て策定された計画に沿った事業運営
- 積極的な情報の開示と関係者間での共有
- ニーズの把握、サービス改善や経費削減努力

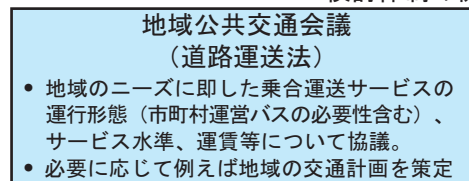
### ●地域住民の役割

- 継続した利用促進の取組み
- 地域公共交通マネジメントへの積極的な参加

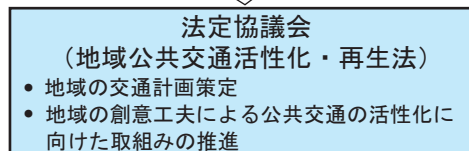
### 地域公共交通の取組みステップ



### 検討体制の例



### 必要に応じて展開



- 地域公共交通活性化・再生総合事業による連携計画策定支援
- 地域公共交通活性化・再生総合事業による連携計画事業支援
- 協議会結果尊重義務、参加要請応諾義務

### 【地域公共交通の取組みステップと体制の例】